

【資料1 - 6】

青森県立高等学校教育改革推進計画に関する
地区意見交換会（三八）における主な意見
<整理案>

平成29年1月31日

目次

1	三八地区の中学校卒業者数の推移と全日制課程の学級数の見込み.....	1
2	全日制課程の学校規模・配置に関する意見.....	2
(1)	重点校、拠点校、地域校の候補校に関する意見.....	2
(2)	委員の意見に基づく学校配置シミュレーション.....	3
ア	平成29年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合.....	3
イ	三戸郡にも多様な学びのできる高校を配置する場合.....	5
ウ	三戸郡の新設校に田子高校も統合して配置する場合.....	7
エ	五戸高校と八戸西高校を統合して新設校を配置する場合.....	9
(3)	その他の意見.....	11
3	定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見.....	12
【参考1】	委員名簿（三八地区）.....	13
【参考2】	オブザーバー名簿（三八地区）.....	14
【参考3】	地区意見交換会の開催状況（三八地区）.....	14

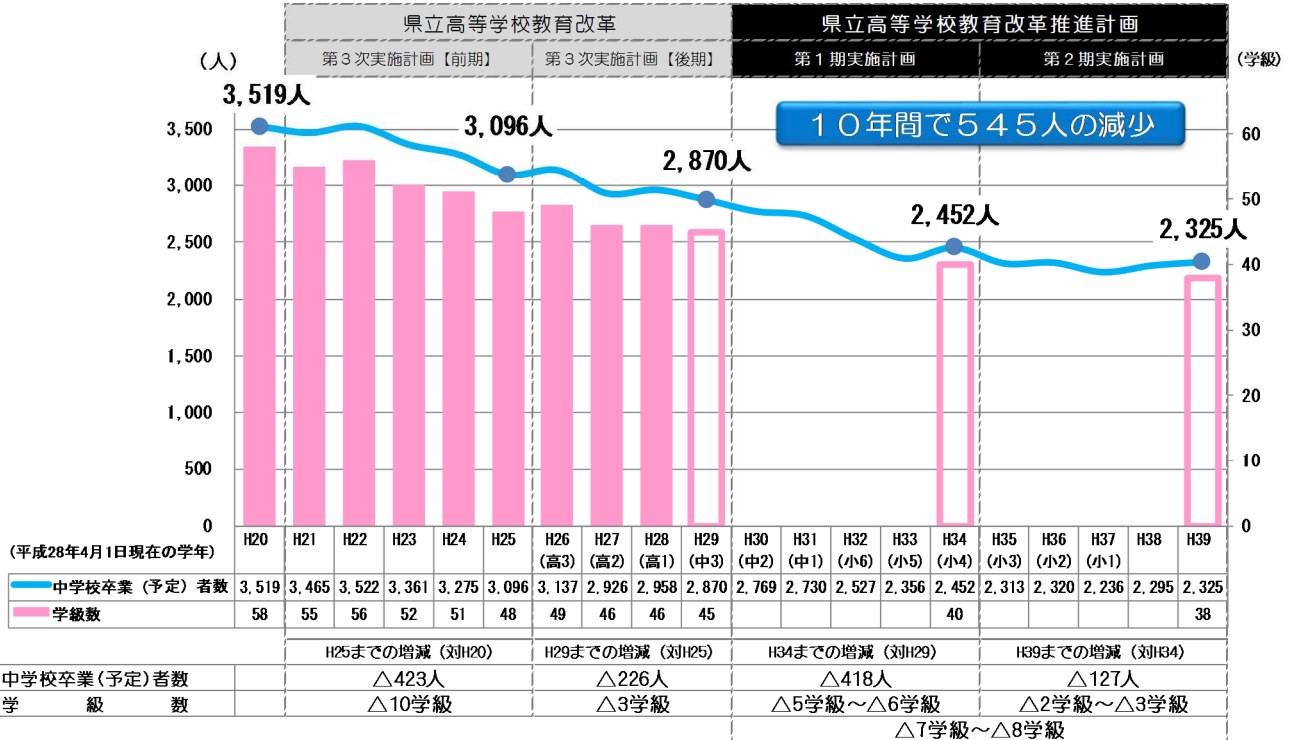
1 三八地区の中学校卒業生数の推移と全日制課程の学級数の見込み

※中学校卒業(予定)者数は、各年3月。

平成29年度以降は、平成28年5月1日現在の児童生徒数をもとに県教育庁高等学校教育改革推進室において推計。

※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。

平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流出入等の状況を勘案し、算出。



			第1期実施計画	第2期実施計画
試案における候補校			H29	H39
重点校	八戸高校	6学級	△5学級 (対H29)	△7学級 (対H29)
拠点校	八戸工業高校	7学級		
地域校※	田子高校	1学級		
重点校等の合計		14学級		
連携校	八戸東高校	6学級		
	八戸北高校	6学級		
	八戸西高校	5学級		
	八戸商業高校	4学級		
	名久井農業高校	3学級		
	八戸水産高校	3学級		
	三戸高校	2学級		
	五戸高校	2学級		
連携校の合計		31学級		
三八地区全体の合計		45学級	40学級	38学級

※基本方針に定める地域校の方向性に基づき、募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満となった場合には、当該高校の所在する市町村等と募集停止等に向けて協議します。

2 全日制課程の学校規模・配置に関する意見

(1) 重点校、拠点校、地域校の候補校に関する意見

① 全般

- 重点校、拠点校の候補校については、適切だと考えている。(第1回)
- 生徒減少を考えると、高校の重点化、拠点化はやむを得ない。(第1回)

② 重点校

- 重点校の候補校については、知識基盤社会やグローバル化等、今後の変化の激しい社会で高校生を育てる点から賛成である。(第1回)
- 現在の知識基盤社会やグローバル化の中、様々な科目を選択できるようにするため、重点校には6学級規模が必要だ。重点校が地区で1校ということに異論はない。(第2回)
- 6学級規模の普通高校については、重点校という名称を付けないまでも、重点校的役割を果たす高校として設置し、やがて5学級、4学級と学級減していく際に、その役割について再検討するという考え方もあるのではないか。(第1回)
- 八戸高校を重点校とすることにより、高校の序列化が加速する恐れがあるため、子どもたちにプレッシャーがかからないようにしてもらいたい。(第1回)

③ 拠点校

- 拠点校については、専門的な幅広い知識が必要であり、4学級が必要である。(第1回)
- 商業の授業を行っている普通科の高校も多いことを考えると、県南に商業科の拠点校があっても良いのではないか。(第1回)

④ 地域校

- 地域校の候補校について、田子町の清水頭地域からの通学を考慮していただいたものと感謝している。(第1回)
- 基本方針には、連携型中高一貫教育の見直しについても掲げられているが、田子高校は卒業生全員の進路決定を達成しており、一人一人の生徒が活躍できる場を与えてもらっている。(第1回)
- 地域校の候補校が示された際に、違和感を覚えた。(第1回)

(2) 委員の意見に基づく学校配置シミュレーション

ア 平成29年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		第1期実施計画		第2期実施計画	
		H29		H34	
重点校	八戸 6学級		八戸 6学級		八戸 6学級
拠点校	八戸工業 7学級		八戸工業 ○学級		八戸工業 ○学級
連携校	八戸東 6学級		八戸東 ○学級		八戸東 ○学級
	八戸北 6学級		八戸北 ○学級		八戸北 ○学級
	八戸西 5学級	△4学級 →	八戸西 ○学級		八戸西 ○学級
	五戸 2学級		五戸 ○学級	△2学級 →	五戸 ○学級
	三戸 2学級		三戸 ○学級		三戸 ○学級
	名久井農業 3学級		名久井農業 ○学級		名久井農業 ○学級
	八戸水産 3学級		八戸水産 ○学級		八戸水産 ○学級
	八戸商業 4学級	△1学級 →	八戸商業 3学級		八戸商業 ○学級
	小計	44学級	△5学級 →	39学級	△2学級 →
地域校	田子 1学級		田子 1学級		田子 1学級
合計	45学級	△5学級 →	40学級	△2学級 →	38学級

※ 八戸商業高校は、第3次実施計画により、平成30年度に1学級減の予定である。

① シミュレーションの基となった意見

- 郡部の学校は、各学年1クラスになっても残してほしい。(第1回)

② 期待される効果等

- 三戸高校、五戸高校、田子高校とも定員に満たない状況にあるが、入学した生徒は必要があってそれぞれの高校に入学していることを考慮し、小規模でも良いので、郡部の学校を残してもらいたい。(第1回)
- 親の送迎に係る拘束時間や、費用が負担になっていると聞く。三戸郡にも高校は必要である。(第1回)
- 住む地域によって通学環境に差が生じないように、新郷村から公共交通機関により通学可能な五戸高校、保護者が送り迎えしている現状の三戸高校については、学級数が減っても存続してもらいたい。(第1回)
- 三戸町では小中一貫教育を行い、三戸高校とは連携協定を結んでいることから、小中一貫教育を行う上では、三戸高校は必要である。(第1回)
- 郡部に配慮した効果的な学校配置である。(第2回意見等記入票)

③ 更に検討を要する課題等

- 教員や部活動の数を確保するということが、子どもは集団で学び合いながら、社会に求められる力を身に付けることを考えると、ある程度学校の規模は必要と考える。(第1回)
- 適正な教育効果を得るために必要な4学級規模に満たない小規模校が乱立し、効果的な高校教育の実践がなされないと想像できる。(第2回意見等記入票)
- 郡部の高校が、魅力ある高校として中学生に訴えるなど特色ある方策を実施しないと、入学者減が一層激しくなる。(第2回意見等記入票)
- 学級数減の数あわせに過ぎないような気がする。生徒減少に伴う学級数減だけの対応というだけでは、理解を得られない面もあるのではないか。(第2回意見等記入票)
- 重点校以外をバランスよく減らしていくやり方では、全体がしりすぼみしてしまうのではないか、心配である。こういうやり方はそろそろ限界だと思う。(第2回意見等記入票)

イ 三戸郡にも多様な学びのできる高校を配置する場合

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		第1期実施計画		第2期実施計画	
		H29		H34	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">重点校</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">拠点校</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">連携校</div>	八戸 6学級		八戸 6学級		八戸 6学級
	八戸工業 7学級		八戸工業 ○学級		八戸工業 ○学級
	八戸東 6学級		八戸東 ○学級		八戸東 ○学級
	八戸北 6学級	△2学級 →	八戸北 ○学級		八戸北 ○学級
	八戸西 5学級		八戸西 ○学級		八戸西 ○学級
	八戸水産 3学級		八戸水産 ○学級	△2学級 →	八戸水産 ○学級
	五戸 2学級		新設校 普通科3学級 農業科2学級 5学級		新設校 普通科○学級 農業科○学級 ○学級
	三戸 2学級	△2学級 →			
	名久井農業 3学級				
	八戸商業 4学級	△1学級 →	八戸商業 3学級		八戸商業 ○学級
小計	44学級	△5学級 →	39学級	△2学級 →	37学級
地域校	田子 1学級		田子 1学級		田子 1学級
合計	45学級	△5学級 →	40学級	△2学級 →	38学級

※ 八戸商業高校は、第3次実施計画により、平成30年度に1学級減の予定である。

① シミュレーションの基となった意見

- 三戸郡にも多様な学びができる高校の設置について検討すべきである。(第1回)
- 三戸郡に少なくとも1校を配置していただきたい。その場合、普通高校と農業高校の統合を視野に入れるべき。(第1回意見等記入票)

② 期待される効果等

- 三戸郡に新設校を1校設置すれば、複数の町村から生徒が集まり、交流を図ることができる。また、現在、地域の格差に伴う収入減による少子化、若者の流出による地域の空洞化等が生じている中、三戸郡の新設校において他の地区もうらやむような教育システムをつくり、地元に着する人材を育てる教育を進めれば良いのではないか。(第2回)
- 郡部に特色のある新設校ができれば、設置された自治体が活気づくと思う。(第2回)
- 立地場所や新設学科の内容により、三戸郡の拠点となる学校として、多くの生徒の進学先となる効果が期待される。(第2回意見等記入票)
- 普通科と農業科が一緒になることは賛成である。できれば商業科もあれば就職を希望する生徒にとっては有効であると思う。(第2回意見等記入票)

③ 更に検討を要する課題等

- 1高校、1校舎制だと広域の通学には対応できないことから、複数の校舎を活用しても良いのではないか。(第2回)
- 五戸高校を募集停止とすると、生徒は十和田市に進学すると思う。また、三戸高校を募集停止とすると岩手県に進学すると思う。(第2回)
- 立地場所の選定、通学のための交通機関の整備、普通科・農業科だけでなく総合学科のようなニーズに合った学科の設置などの課題があると思う。(第2回意見等記入票)
- 新設校の設置場所が問題である。五戸町から三戸町、南部町方面には通学が困難であるので新設校の場所によって五戸高校は地域校を目指すしか道はない。三戸町、五戸町、南部町で激しい綱引きが行われることが予想される。(第2回意見等記入票)
- 広い郡部の通学には負担が大きく、対応できない。(第2回意見等記入票)
- 三戸高校について、以前は各学年6クラスあったが、今は各学年2クラスであり、部活動の数も減ってしまった。陸上やバスケットボール、スケートなど、部活動を高校でも続けたい生徒は八戸市内へ進学している。そのことを考えると新設校も必要だと思うが、やはり地域から高校が無くなってしまふのは寂しい。子どもたちの事を考えるとどちらが良いのか。親の経済的な負担もある。もう少しいろいろな方の意見を聞いてみたい。(第2回意見等記入票)
- 普通科存続にこだわりすぎているような気がする。やらざるをえない教育改革なのであればもう少し大胆であっても良いと思う。今回の参考資料にもあるように、三戸郡にも魅力ある学科(観光ビジネス科、農業環境科、電子情報工学科等)の設置を含めた総合高校を検討する必要があるのではないか。(第2回意見等記入票)

ウ 三戸郡の新設校に田子高校も統合して配置する場合

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		第1期実施計画		第2期実施計画	
		H29		H34	
重点校	八戸 6学級		八戸 6学級		八戸 6学級
拠点校	八戸工業 7学級		八戸工業 ○学級		八戸工業 ○学級
連携校	八戸東 6学級		八戸東 ○学級		八戸東 ○学級
	八戸北 6学級	△2学級 →	八戸北 ○学級		八戸北 ○学級
	八戸西 5学級		八戸西 ○学級		八戸西 ○学級
	八戸水産 3学級		八戸水産 ○学級	△2学級 →	八戸水産 ○学級
	五戸 2学級		新設校 普通科3学級 農業科2学級 5学級		新設校 普通科○学級 農業科○学級 ○学級
	三戸 2学級				
	名久井農業 3学級	△3学級 →			
田子 1学級					
八戸商業 4学級	△1学級 →	八戸商業 3学級		八戸商業 ○学級	
合計	45学級	△6学級 →	39学級	△2学級 →	37学級

※ 八戸商業高校は、第3次実施計画により、平成30年度に1学級減の予定である。

① シミュレーションの基となった意見

- 田子高校が地域校の候補校になったが、かつて三戸高校の分校だった田子高校が存続して、本校であった三戸高校に統合の可能性があるというのは違和感がある。田子高校も含めて再編のことを考えてはどうか。（第2回）

② 期待される効果等

○

③ 更に検討を要する課題等

○

エ 五戸高校と八戸西高校を統合して新設校を配置する場合

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		第1期実施計画		第2期実施計画	
		H29	H34	H39	H39
重点校	八戸 6学級		八戸 6学級		八戸 6学級
拠点校	八戸工業 7学級		八戸工業 ○学級		八戸工業 ○学級
連携校	八戸東 6学級		八戸東 ○学級		八戸東 ○学級
	八戸北 6学級		八戸北 ○学級		八戸北 ○学級
	八戸西 普通科4学級 スポ科1学級 5学級	△4学級 →	新設校 普通科○学級 スポ科○学級 ○学級	△2学級 →	新設校 普通科○学級 スポ科○学級 ○学級
	五戸 2学級				
	三戸 2学級		三戸 ○学級		三戸 ○学級
	名久井農業 3学級		名久井農業 ○学級		名久井農業 ○学級
	八戸水産 3学級		八戸水産 ○学級		八戸水産 ○学級
	八戸商業 4学級	△1学級 →	八戸商業 3学級		八戸商業 ○学級
	小計	44学級	△5学級 →	39学級	△2学級 →
地域校	田子 1学級		田子 1学級		田子 1学級
合計	45学級	△5学級 →	40学級	△2学級 →	38学級

※ 八戸商業高校は、第3次実施計画により、平成30年度に1学級減の予定である。

① シミュレーションの基となった意見

- 高校の配置については、戦前の状況や昭和20年代の状況に戻してはどうか。例えば八戸西高校を募集停止とすれば、五戸高校に通学する生徒が増えるのではないか。かつては八戸市内から五戸高校や三戸高校に通学していたので、そのような状況に戻し、市部から町村部へ高校生が通学する流れを作り、地方創生につなげてはどうか。（第2回）
- 今後の生徒数の減少や通学環境等を踏まえると、五戸高校と八戸西高校の統合、八戸市内の普通高校の統合、三戸郡内の高校の統合による総合高校的学校の新設が考えられる。（第2回意見等記入票）

② 期待される効果等

○

③ 更に検討を要する課題等

○

(3) その他の意見

(具体的な学校規模・配置について)

- 地元の高校を残してほしいという希望もあるが、再編は避けられないのではないかと考えている。(第1回)

(学科等について)

- 三戸郡では、職業教育を主とする専門学科の設置を希望している。(第1回)
- スポーツ科学科や表現科など、県立高校の特色ある学科は大事にしてほしい。(第1回)
- 三八地区の特色及び専門的な施設・設備の設置状況に鑑み、工業科と水産科の維持など、地域や産業の根幹を支える人材の育成は必須である。(第1回)
- 職業高校からも推薦を含め大学進学できるという道を作ることが、総合高校や専門高校に進学する生徒や保護者にとって魅力的なことだと思う。(第2回意見等記入票)

(生徒の通学について)

- 重点校、拠点校への通学手段の確保が必要であり、自宅から安心して通えるように公共交通機関との連携が不可欠である。(第1回)
- 子どもたちが安全、安心して通学できることが重要であり、通学時間も重要である。通学ができないような地域については、高校教育を受ける機会を確保してほしい。(第1回)
- 郡部の学校がなくなり、八戸市内の高校に通学する場合の保護者の負担を考慮してほしい。(第1回)
- 交通機関及び費用に配慮して地域校を配置することについては、自己負担で私立高校に通学している生徒がいることも考慮した上で、不公平感が出ないように検討する必要がある。(第1回意見等記入票)
- 現状では、高校教育を受ける機会の確保と充実した教育環境の整備の二つを両立させることはできないと思う。充実した教育環境の整備を優先し、通学が困難な地域の生徒のためのスクールバスの運行や学生寮の設置等の対策を取れば良いのではないか。(第1回)
- 通学には経済的な問題もあり、学校配置に当たっては、通学環境について考慮してほしい。(第1回)

(その他)

- 高校においても特別な支援を要する生徒が増えてきている。教員数が確保できるのであれば、高校でも通級が可能になるような仕組みが必要と考える。(第1回)
- 三八地区は私立高校の数が多く、私立高校との兼ね合いも視点の一つとして必要ではないか。(第1回)
- 各高校の特色を明示し、中学生に対して授業公開するなど積極的に情報提供を行い、中学生が適切に進路選択できるような配慮が必要である。(第1回)

- 教育を受ける権利を考えると、八戸市内の高校と地域校で同等の教育が保障されているのかという点に疑問があるので、地域校における教員配置について検討してもらいたい。(第1回)
- オブザーバーから4学級規模あれば各科目において専門教員を配置できるとの意見をいただいた。教員配置は自由にできるわけではないので、学級数は非常に大事だと思う。(第2回)
- 自分の地域から学校がなくなるということを含め、青森県の未来を担う子どもたちのために身を切る、つまり、再編に向けて学級減・統廃合に応じるという思いがないと、ソフトランディングできないのではないかと考えている。(第2回)
- 4学級規模の高校には青森県独自に教員を増員して6学級規模に相応する科目を開設するなど、特色を打ち出してほしい。施策実施には予算を伴うことであり、大きな予算を準備して高校改革を進めてほしいものである。(第2回意見等記入票)
- 少子化対応の高校教育改革とならないように、高校改革のビジョンを前面に出すことで、地域からの理解も得られるのではないかと思う。(第2回意見等記入票)

3 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見

- 定時制・通信制課程については、通学に考慮して、交通の便が良い所に設置してほしい。また、ICTや通信回線を利用するなど、多様な教育を受けられる環境を整備してもらいたい。(第1回)
- 夜間部の志望者が少ない場合は、昼間部の募集人員枠を広げてはどうか。(第1回)

【参考1】委員名簿（三八地区）

（敬称略）

区分	所属等	委員名	備考
市町村教育委員会	八戸市教育委員会 教育長	伊藤 博章	
	三戸町教育委員会 教育長	友田 博文	
	五戸町教育委員会 教育長	高橋 正之	
	田子町教育委員会 教育長	宇藤 裕夫	
	南部町教育委員会 教育長	山田 義雄	
	階上町教育委員会 教育長	川浪 孝雄	
	新郷村教育委員会 教育長	橋本 芳弘	
P T A	八戸市連合P T A 会長 （八戸市立柏崎小学校P T A 会長）	石橋 伸之	
	三戸郡連合P T A 会長 （三戸町立三戸小・中学校P T A 会長）	中村 孝範	
	青森県高等学校P T A連合会 三八地区協議会 会長 （県立八戸工業高等学校P T A 会長）	吉岡 義久	
産業界	八戸商工会議所青年部 理事	田村 哲章	
小中学校長会	八戸市小学校長会 会長 （八戸市立長者小学校 校長）	嶋脇 郁夫	
	三戸郡小学校長会 会長 （南部町立向小学校 校長）	芦名 均	
	八戸市中学校長会 会長 （八戸市立第一中学校 校長）	四戸 康雄	
	三戸郡中学校長会 会長 （南部町立名川中学校 校長）	高橋 力也	
	元県立名久井農業高等学校 校長	斗沢 一雄	進行役

【参考2】オブザーバー名簿（三八地区）

（敬称略）

所 属 等	オブザーバー名	備 考
県立八戸高等学校 校長	久 慈 恵 司	
県立八戸東高等学校 校長	福 井 武 久	
県立八戸北高等学校 校長	竹 浪 二三正	
県立八戸西高等学校 校長	鎌 田 晃 説	
県立三戸高等学校 校長	三 上 幾 子	
県立五戸高等学校 校長	宍 倉 慎 次	
県立田子高等学校 校長	石 澤 徳 成	
県立名久井農業高等学校 校長	四 木 博 之	
県立八戸水産高等学校 校長	米内山 裕	
県立八戸工業高等学校 校長	一 戸 利 則	
県立八戸商業高等学校 校長	敦 賀 定 彦	
県立八戸中央高等学校 校長	高 谷 正	
県立八戸聾学校 校長	中 村 健	
県立八戸第一養護学校 校長	敦 川 真 樹	
県立八戸第二養護学校 校長	神 林 宏 喜	

【参考3】地区意見交換会の開催状況（三八地区）

回	年月日	内容
1	平成28年 9月14日	○学校規模・配置に関する意見発表
2	平成28年11月14日	○第1回地区意見交換会での意見等を踏まえた学校配置シミュレーションに関する意見交換
3	平成29年 1月31日	○地区意見交換会委員の意見に基づく学校配置シミュレーションにおいて想定される効果・課題等に関する意見交換